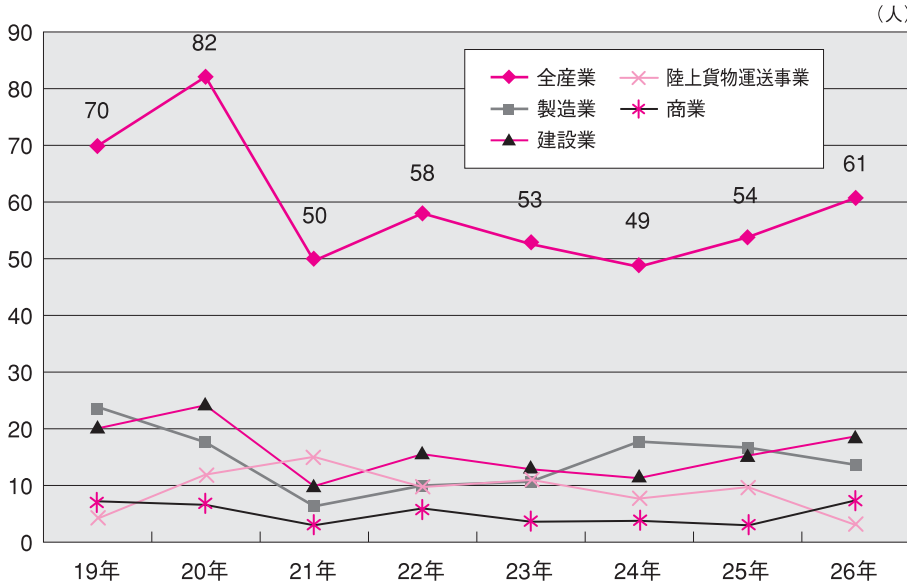


# 平成26年愛知の労働災害発生状況

## — 死亡災害は前年比較7人増加 —

愛知労働局

死亡災害の発生状況【グラフ1】

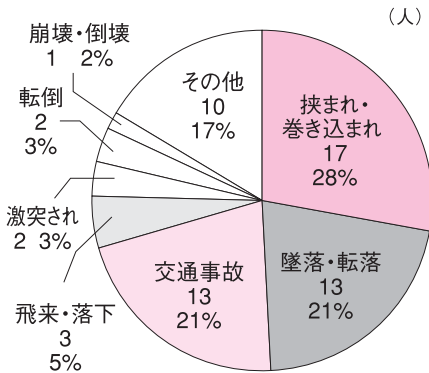


### (1) 死亡災害の発生状況

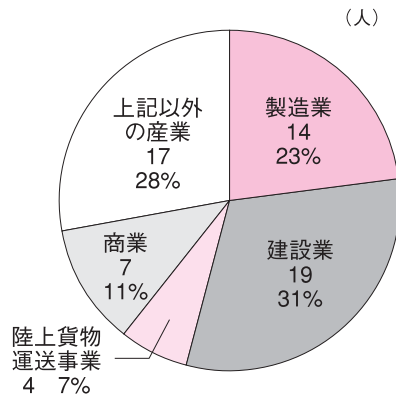
平成26年の愛知県内における死亡災害は61人と

愛知労働局（局長 藤澤勝博）は、平成26年に発生した労働災害による死者数（確定）を取りまとめ発表しました。全国安全週間準備期間における活動の参考となりますよう、次の通り紹介します。

平成26年事故の型別死亡災害（全業種）【グラフ3】



平成26年業種別死亡災害発生状況【グラフ2】



### 【グラフ1】

平成25年の確定値より7人の増加となった。

平成26年の確定値で、

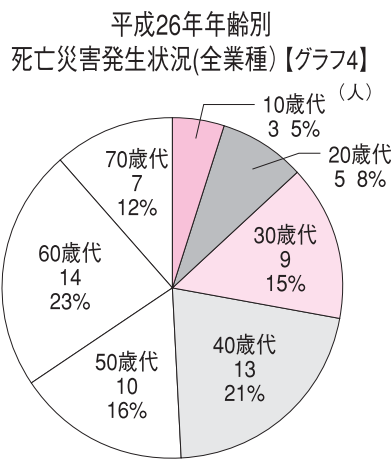
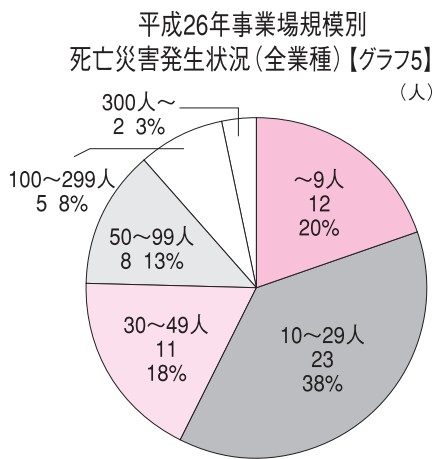
### 【グラフ2】

平成26年の死亡災害を事故の型別で見ると、挟まれ・巻き込まれ、墜落・転落、交通事故の3つの型が70%を占めている。

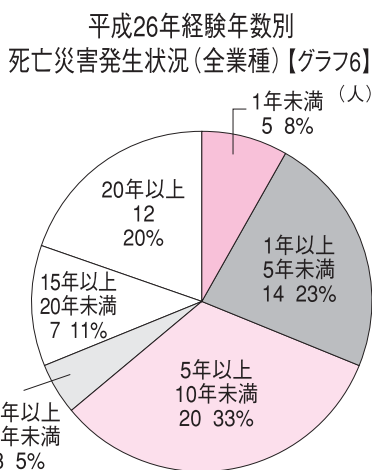
### 特徴 (2) 死亡災害の発生状況

▽ 事故の型別の発生状況

平成26年の死亡災害を事故の型別で見ると、挟まれ・巻き込まれ、墜落・転落、交通事故の3つの型が70%を占めている。はさまれ・巻き込まれ災害については、平成25年の8人から17人と大幅な増加となった。



▽年齢別の発生状況  
平成26年の死亡災害を被災者の年齢別にみると、10歳代で3人、20歳代で5人、30歳代で9人、40歳代で13人、50歳代で10人、60歳代で14人、70歳代で7人と発生している。50歳以上が半数以上を占めている。



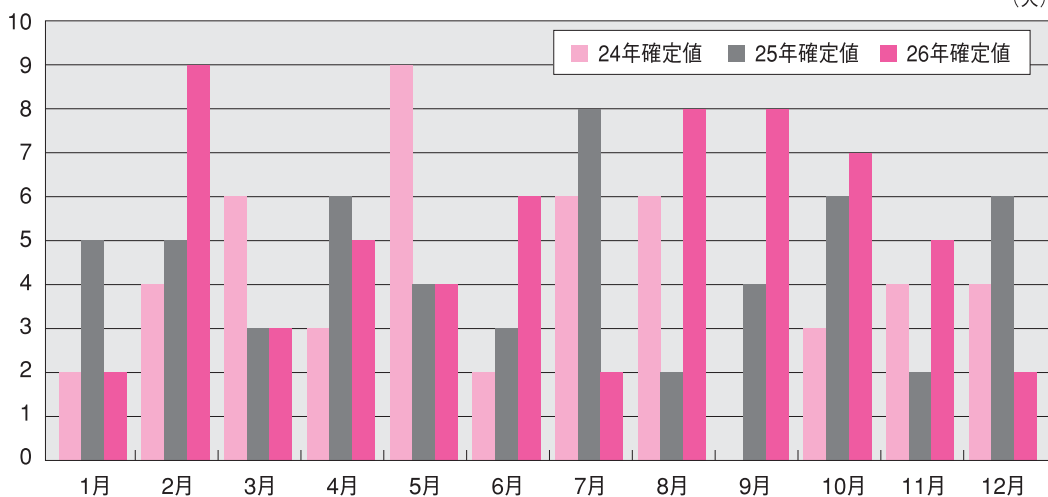
▽経験年数別の発生状況  
平成26年の死亡災害を被災者の経験年数別にみると、1年未満が5人、1年以上5年未満が14人、5年以上10年未満が20人、10年以上15年未満が3人、15年以上20年未満が7人、20年以上が12人と発生している。

【グラフ4】  
▽事業場規模別の発生状況  
平成26年の死亡災害を事業場の規模別にみると、9人以下が12人、10人以上29人以下が23人、30人以上49人以下が11人となっており、50人未満の小規模事業場で75%を占めている。

【グラフ5】  
▽経年数別の発生状況  
平成26年の死亡災害を月別にみると、2月9人、8月と9月が8人と多発した。

【グラフ6】  
▽月別の発生状況  
平成26年の死亡災害を月別にみると、2月9人、8月と9月が8人と多発した。

月別の発生状況【グラフ7】 (人)



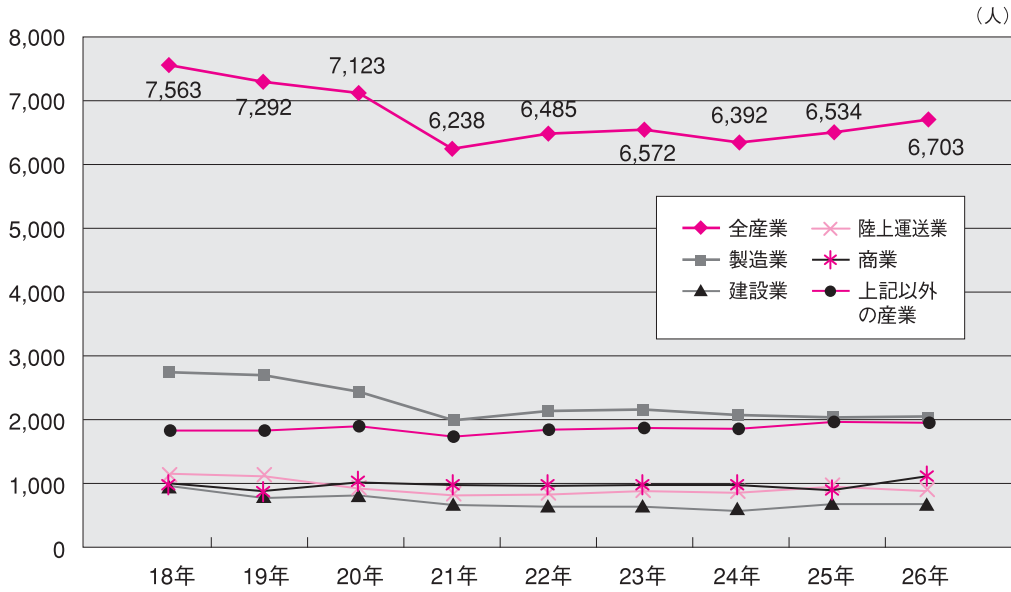
(3)労働災害による死者数の発生状況

▽事故の型別の発生状況  
転倒が1456人(22%)、墜落・転落が1144人(17%)、はさまれ・巻き込まれが1026

【グラフ7】  
(4)死傷災害の特徴  
▽業種別の発生状況  
製造業が2027人と最も多く、災害発生件数全体の30%を占めている。次いで、商業が1068人(16%)、陸上貨物運送事業が913人(14%)、建設業が712人(11%)の順になっている。

平成26年の愛知県内における労働災害による死者数(休業4日以上)は、6703人であった。労働災害による死傷者数は、平成25年に引き続き増加となり、平成26年は対前年169人の増加となった。

労働災害による死傷者数の発生状況【グラフ8】



人（15%）、と3つの型で54%を占めている。

▽ 年齢別の発生状況  
40歳代が1493人（22%）、50歳代が1492

人（22%）、60歳以上が1487人（22%）の順となっているが、特に突出した年代は認められない。

▽ 事業場規模別の発生状況

規模10人〜29人の事業場が1747人（26%）、規模9人以下の事業場が1361人（20%）と30人未満の小規模事業場が46%を占めている。

(5) まとめ

平成26年の死亡災害件数は、確定値で61人となり平成25年の確定値より7人の増加となり、死亡災害は、長期的には減少傾向であるものの、2年連続で増加傾向を示した。また、死傷者数についても、確定値で6703人と平成25年より169人の増加となり、死亡災害件数同様に2年連続で増加傾向を示した。

平成25年度より実施している第12次労働災害防止推進計画の目標は、計

画最終年の平成29年に死亡者数が40人を下回ることで、死傷者数を5433人以下とすることとしており、平成25年、平成26年と死亡者数及び死傷者数ともに2年連続で増加傾向となったことを踏ま

え、今後も当該目標の達成に向け、より一層の労働災害防止対策の徹底を図ることとしている。